令和７年度　第４回梅坪台地域会議　会議録

■　**日　時**　　令和７年８月１９日（火）　 午後７時～午後８時３０分

■　**場　所**　　梅坪台交流館　２階　大会議室

■　**出席者**

＜委　員＞　岩崎　洋平（欠席）　岩松　初男　川井　圭子
鈴木　重久　鎮西　和也　長江　秀昭
三岡　英隆　山村　史子　依田　武人

＜交流館＞　杉山　浩子（梅坪台交流館　館長）

＜事務局＞　塚田　征弘（地域交流課　副課長）　槌井　功二（地域交流課　担当長）
勝野　一城（地域交流課　主査）　山下　慎介（地域交流課　会任）

■　**内　容**

1　開会

2　会長あいさつ

3　報告・協議事項

（１）地区コミュニティ会議関係について（報告）

（２）地域課題について（協議）

①区長会事前説明の状況報告について

②地域と子どもとのつながりの提言について

（３）子ども会中間報告（意見交換）日程について

4　連絡事項

■　**議事内容（要約）**

2　あいさつ

・鈴木会長あいさつ

3（１）地区コミュニティ会議関係について（報告）

・鈴木会長から以下のとおり報告

・コミュニティ各委員会報告

・社会を明るくする運動、梅の収穫収益金の寄付、ふれあいまつり、二十歳のつどいなどの行事の進捗説明

（２）地域課題について（協議）

①区長会事前説明の状況報告について

②地域と子どもとのつながりの提言について

関連があるため一括して説明を実施。

・令和６年度の取組み経緯の説明

・支援体制の子どもと地域をつなぐ会構想（案）の説明
・意見交換

＜主な意見＞

「①区長会事前説明の状況報告について」及び「②地域と子どもつながりについての提言について一括して協議

・地域学校共働本部は具体的にどのような活動しているのでしょうか。

→大きく３つある。登下校の見守り、本の読み聞かせを保護者などが実施、総合学習で学年ごとに地域の方を招いて講話を聴くというのがあります。梅の収穫の話や昔遊びの学習などがあります。

→地域との連携を図るために登下校の時間を自治区に連絡したり、自治区や交流館の情報を学校へ伝達したりしています。

・県のホームページを参照すると、地域学校共働本部の目的は、未来のこどもの健やかな成長を図るために、地域、学校、家庭の連携、協働を強化し、社会全体の教育力の向上が必要。学校を核とした地域づくりを目指して、地域と学校をつなぐ活動を行うこととなっている。

・何で子ども会を議論しないといけないようになってしまったのか。今は親の都合で活動ができなくなっているように思う。保護者の真意を聞いてみたい。子どものためなら多少の犠牲があってもやれるのではないか。

・地域学校共働本部は子どもたちのために頑張ってもらっている。高齢者クラブと昔遊びや子どもに劇をやってもらうなど交流会をやっていて、年寄りにとっては本当に楽しい時間を過ごさせていただいている。こういう機会を増やしていいただけると高齢者もありがたい。

・新入生歓迎会が地域と子どもをつなぐと言えるのかについて。子どもが１年生の時に通学団の顔合わせ会で他学年と親も顔合わせになっている。親だけでなく他の地域の人たちも参加して盛大にお祝いするようなイベントにできれば、地域と子どものつながりができ、通学時のトラブルにも迅速にサポートできるのではないかと思う。今まで通りの親と子どもだけでは発展が無いかもしれない。

・事務局から提案いただいた基本理念案については、話し合いもう少し整理した方がいいかと思います。

・地域学校共働本部とつなぐ会の役割の区別については、自分の概念は別物と認識している。つなぐ会には安全な事務局が必要であり、地域学校協働本部にお願いしたいと考えている。共働本部の主語は学校にあり、学校教育のサポートが役割であるが、子ども会が学校教育と全く関係ないわけではないと思う。つなぐ会は共働本部の事務局サポートを受けながら活動し、つなぐ会も共働本部の学校行事に参加したり、相互に協力したりしていけるとよいと考えている。

・子どもと地域をつなぐ会の基本理念案は素晴らしいと思う。現役の頃、モノづくりの会社にいたが、地域でも企業でも国でも全て「人づくり」が重要になると思う。基本理念に「将来を担う子どもを育てる。」を付け加えてほしい。以前、太田市長の言葉で、子どもは「家庭、学校、地域で育てる。」と言われた。今は、全て学校に投げてしまっているが、地域も関わることが大切。

・地域の役員をやっていたときに不法投棄パトロール、環境美化で子ども会や農協さんが加わってくれた。参加した子どもが宝探しのように目を輝かせていた。終わった後の区長さんからの

子どもたちに対する「ありがとう」の一言が子どもに非常にいい影響を与える。

・事務局の基本理念案や図式が、自分としては非常にストンと落ちると感じている。子どもたちに対して何かしたいという気持ちがとても伝わってくる。今日、区長さんたちの説明に際しては、急に細かな資料を目にしてついていけていないと感じた。これまで地域会議がこの課題について協議してきているが、ヒアリングの出来なかったところは、昨年のアンケートの回答のなかったところは、申請資料から持ってきているところもあるので、実際の声は本当にここにそこにあるのかと疑問がある。本当はこの場に当事者が揃って本当に困っていることを話し合えるのが理想かと思う。ネットワークや会議体を作っただけで形骸化しているケースも多いので、もう一歩進めて地域の活動になるのも素晴らしい。

・地域の子ども全体に目を配ることと、町内の子どもと隣のおばちゃんがつながることを一緒のやり方で求めていくのは難しいなと思っている。先ほどの話であったゴミ拾いで地域におじさんに褒めてもらって地域のおじさんを知る機会は本当に大事なことだと思う。新入生歓迎会で一緒に遊ぶ経験だって素晴らしいことだが、どちらも求めようと思うと難しい。交流館の立場としてできることは何かと考えている。

・事務局案の基本理念については、反対する理由はない。ただ、理念ですので抽象的である。一方、つなぐ会の構想は具体的であり、そのギャップにどうしたらいいかと考えている。お祭りや伝統文化については宗教であり、学校・地域学校共働本部では担えません。つなぐ会の事務局の活動から除かないといけないと個人的には思っている。ここは議論のあるところだと思う。

・新入生歓迎会は、地域でお祝いする価値も意味もあると思う。敬老会もしかりだが、親だけが参加していてはつながらないので、当日だけでも高齢者クラブにボランティアで参加してもらうとか地域でお祝いする会になると思う。

・つなぐ会と地域学校共働本部の役割について、つなぐ会は大きな組織で、中心を担う事務局が地域学校共働本部で位置づけでいいのではないかと思う。地域学校共働本部なので学校サイドだけでなく地域からの要望を具現化して、それを学校長が認めれば地域での活動も問題ない。

・地域学校共働本部の活動は大体わかった。つなぐ会はこれから立ち上げるものなので、始めるにあたってまだ狙いがあいまいと感じる。新入生歓迎会などわかりやすいところから始めて、地域の声を反映しながらやっていけばいいと思う。総花的になってしまうとサポーターの方々もやりづらいのでは。

・逆行するかもしれませんが、理念がしっかりできていなければ活動できないかと言えば、そうではなくて、やってみて悪いところがあれば修正するという進め方もある。トライ＆エラーでがちがちに固めなくても進められればいいかなとも思う。

・子ども夏まつりをうめつぼ広場で実施したが、子どもが店長になり、来てくれた子どもたちに楽しんでもらうことをコンセプトにして盛況なイベントになった。子どもたちが当事者、主体となった取組を進められればいいと思う。

・一部の固定した委員が長く続けるのではなく、続いていく仕組みを考えないといけない。

・長く続けるのは大切だけれども、役員が辞めたら終わりではいけないので、末永く続けられるようにするといい。梅坪台は 300 世帯から 7000 世帯以上に増えている。この地域に生まれた子はここが故郷になるので、子どもたちが育った故郷を大切にできる子どもを育てることが重要だと思う。

（３）子ども会中間報告（意見交換）日程について
・10月16日授業参観がありますので、日程を空けておいてほしい。

４　連絡事項
■会議資料送付のためメールアドレスのある方は、空メールを地域交流課に送ってほしい。

■　今後の予定
令和７年度　第４回梅坪台地域会議
９月　９日（火）午後７時００分～地区区長会に事前説明
１０月１６日（火）未定 ～ 梅坪小学校交流館大会議室にて